

「苦手を防ぐ英語指導のWhat?とHow?」

～ 東京会場レポート ～



参加者アンケート結果

満足度平均 4.7

(5段階評価)

＜参加いただいた皆様からの声＞

- 具体的なお話、「今からすぐに始めよう！と思うお話がたくさんありました。そして、英語、日本語をはじめとする言語の面白さを再発見できました。この楽しさを子どもたちに伝えたいです。
- 生徒の学習困難を疑似体験し、ショックをうけました。こんな時、「がんばりなさい」などと声掛けされたらつらいですね。「わからない」と悩んでいる時に、講師の方からアドバイスしてもらおうとスッと「わかる」ことができました。「わからない」に共感してもらえた時には、とてもほっとしました。今後の生徒への言葉がけが変わりそうです。
- 実際に教材を使用しながらアルファベット指導方法を学べたことはとても貴重だった。指導のポイントや具体的な子どもへの声掛けは、すぐに実践しようと思う。
- アルファベット文字の導入の仕方、フォニックスなど英語の授業にそのまま使えそうと思った。
- クイズ形式で、参加型の講義でおもしろかった。語源など英語の知識についての話もあって授業の役に立ちそうだった。
- 参加者が積極的に発言し、活発に情報交換する姿におどろいた。主催者のアイスブレイクからはじまる雰囲気づくりのなせる業だと関心した。参加者からの「子どもにとってわかりやすいフォントは、何か？」との問いかけに、講師のみならず特別支援学校の先生や出版社の方からも意見が出た。
- 視覚支援の話が役に立った。
- 英語は専門外ですが、会場の方々と交流し、情報交換をすることができ、大いに勉強になりました。
- 我が子への英語指導に関して、見通しが立ちました。

＜おもな内容＞

- ① 生徒の困難を疑似体験
授業改善の第一歩は、子ども達を見ることから。b /d を混同する、読めない、読めても内容が理解できないなど、「わからない…」という子ども達の気持ちを体験していただきました。
- ② 苦手としがちなポイントを確認
シンプルだからこそ難しいアルファベット！ 音の聞き分け、日本の子ども達が苦手としがちな「音の足し算・引き算（音韻操作）」など苦手の原因となるポイントをリストアップし、さらに「自ら学び取る力」を伸ばす工夫を考えました。
- ③ 苦手を防ぐ具体的な手立て
b /d / p /q など形が似た文字の混同を防ぐ工夫、単語が覚えられない、聞き取れない、音読ができない、読めても内容が理解できないなど、教材、具体的な練習方法をみなさんと経験していただきました。

* 参加者 教職員（中学、高校、特別支援学校、フリースクール等）、大学生、教育関連企業職員、保護者など
詳しい様子は、<http://rise.gr.jp/archives/11793> をご覧ください。